

Industrial Furnace Technique

A. He mansen, 1929.

Ernest Benn Ltd. London, p.p. 293, ¥ 13.75

原著は瑞典の顧問設計者たる著者の三十年に亘る経験と研究とから生れたもので本書は其英譯版である

之に依つて近代爐型若くは装置の一般を瞥見せんとする向には適しないが實際に加熱爐特に瓦斯爐の設計或は操業に携はる人々にとつては好適の虎の巻となることと思はれる

本書の内容に關しては其卷頭序文であるコペンハーゲンの Carl Jacobson 教授の次に示す手紙の一節で略々想像が付くであらう

『此著は私は原稿で讀ませて頂いたのだが工學書として次の點で特異の位置を占むるものと思ふ、即第一に文題其物が從來餘り取扱はれなかつたものであること、第二に其内容が目新しい形式で示されて居ることである、一例を擧ぐれば著者は月並な行方である多様の装置や特種の爐型等の羅列を避け單に各種加熱爐構作上の要件及計算基礎を直截に詳述せる如きは之である』

著者は本主題に關する雑多の問題の悉くを述べることをして著者自身が爐設計者に益ありと認めたるもの丈に全力を傾倒して居る、其内容よりすれば本書の如き其新式製作技術を説明し盡せる恰も世界屈指の大爐型會社の設計秘傳公開の觀がある

本書では讀者の範圍からして主題中の或部分を特に詳細に記述して居るのは當然で此意味でレキユペレーターの理論に力を入れて居ることも敢て異とするに足るまい、又本書の或部に就ては純理的立場からすれば多少の異論が起るかも知れぬが之は實地の經驗より割出された單純化として受け容れらるべきものである云々』と謂つて居るが本書の批判としては確に正鴻を得た言葉である

新刊紹介

(山崎)

日本標準機械總覽

東京市麴町區内幸町一ノ六 日本型錄編纂會

昭和五年一月發行 四六倍版約二千頁 定價二五圓

我國の機械工業は世界大戰後異數的發展を遂げ今や列強に伍して何等遜色ない狀勢を保持するに至つた、然るに各種の標準機械を網羅して工業知識の普及と機械工業の進運に資すべき著書は未だ極めて寥々たるものである、即從來の機械關係圖書は多數ありと雖も其多くは難解専門的に偏して實用に疎く或は所謂商店型錄の類にして我田引水に陥るを免かれない、日本型錄編纂會は茲に鑑みるところあり國産品及販路を本邦に有する外國製品の廣い範圍に亘つて機械、工具並に材料の全般を網羅し約二千頁の大冊として表題の如き、機械工業エンサイクロペディアを出版した事は極めて有意義と言はねばならぬ、本書收むるところは蒸汽機關、内燃機關の大小各種計器、試験器及タイプライター類の小に至る迄二〇部に分ち殆ど餘すところがない、圖版六千個に餘り機械毎に其製作所を明示し機能、容量、使用法等の解説を附してある、特に標準工具に就ては一々の定價を掲げてある故購買の際便利を得る事尠くない、尙附録として主要機械製作、取扱業者一覽及諸機械代理店總覽を加へてある、由來此種圖書の完成は如何なる統計書よりも至難なる業であり従つて一、二の欠員又は不滿のあるのは寧ろ當然である、例へば各種機械の標準的価格、工具類の製作並に取扱書を紹介すれば一層便利である、しかし之等は版を重ねて益々完備される事と思ふ、本書は直接關係の工場は勿論、製作所、學校、試験所等公共施設を有するところには當然備へて然るべきものと信ずる (諏訪)

四三九